

わがライフワーク イボ神様取材旅

平松 洋（高8回）



『雪椿』第30号の「特集Ⅰ わが恩師よ」をなつかしく拝見しました。その3「思い出に残る先生」の問2の「記憶に残るニックネーム

（渾名）には、どのようなものがありましたか」。そこには懐かしいカツツァン、ギャアさん、セツチャンなど、忘れられないニックネームが並んでいました。その中にモンチャがありました。モンサとも言われました。話す時にモグモグと言葉がはっきりしないからなのです。このモンサの次男坊が私です。

モンサは、私が高校1年の頃（1954年）まで高田高校の生物の教師をしていて教頭でした。朝礼の時間が最も嫌だったことを思い出します。その頃の校長先生は有名な小和田毅夫先生で、立て板に水のごとく訓示をされました。その後いつも、教頭であった父が登場してモグモグと話すのです。父はその年に新潟県立津川高校の校長になって高田高校を去りました。私の苦痛の時間が1年ですみましたが、兄は「俺は在校中3年間も苦痛を味わったのだ」といつも言っていました。

私たちは三人兄弟で、三人とも高田高校のお世話になりました。兄の昭尚は高5回（昭和28年卒）、弟の守は高14回（昭和37年卒）です。父は後に高田高校校長を昭和39

年（1964年）4月から3年間勤めさせて頂き、退職後は高田を去り、神奈川県大和市に弟とともに住みました。父は2002年8月30日に96才で亡くなり、それを追うように同年12月20日に68才で兄も逝きました。

父は広島県の瀬戸内の離島の僧侶の一人息子に生まれたのですが、僧侶を捨てて広島高等師範学校に入り、さらに広島文理科大学に進み、卒後高田師範学校の教師を経て高田高校の生物の教師になりました。晩年父は四国八十八か所めぐりをしていたが、実現出来ずに旅立ちました。その息子がなぜかイボ神様に魅せられて、現在までに850か所以上のイボ神様を見つけ、うち140か所を訪問取材しました。

私は現在静岡県の静岡市内で皮膚科医院を開業している現役皮膚科専門医です。皮膚科医の他に静岡県社会保険支払い基金の皮膚科審査委員を引き受けて30年を超えました。近頃は皮膚科主任審査委員を委嘱され、多忙の日を送っています。元気なら、あと4年ほどこの生活を続けることになるでしょう。

忙中閑ありで、暇を見つけるとイボ神様やイボ取り地蔵を訪問しています。今年のゴールデン連休には、千葉県の九十九里近辺のイボ神様を5か所訪れました。今年の6月には東京都足立区の4か所と新宿区と目黒区の各1か所を取材しました。

1999年に東海道四百年祭参加サイト「夢出会い旅サイバー五十三次」をパソコンの師と私たち夫婦で共同制作することになり、三人でのマイカーによる五十三次の宿場の取材旅を始めました。静岡を朝の5時に出

発して東京の日本橋をスタートし、五十三次の宿場を取材しながら京都の三条大橋まで1年半くらいかかりました。

途中の静岡県蒲原宿（現静岡市清水区蒲原）で、義経の硯水の遺跡にイボ取り地蔵がありました。さらに愛知県の四十番目の宿場の池鯉鮒（現在の知立市）で在原業平の供養塔を訪れました。在原業平は平安初期の有名な歌人で、『古今集』や『新古今集』に収められています。この地で詠んだ、カキツバタの五文字を入れた「からごろも きつつなれにし つましあれば はるばるきぬる たびをしぞおもう」が知られています。

なんとこの業平の供養塔がイボ神様だったのです。そもそも私とイボ神様との初めての出会いは、皮膚科医になったばかりに皮膚科の学会で訪れた石川県金沢市の兼六公園にあるイボ取り石です。その石に手を触れてイボ取りを祈願して、石に溜まった水をイボにつけるおまじないでイボがとれるというのです。こういうものは生まれ育った高田地方にはないものなので、強烈なインパクトを与えられました。

丁度その頃に足にイボが多発した6才の女の子をつれたお父さんが受診されました。それまで神奈川県川崎市の総合病院で液体窒素による「いぼ冷凍凝固法」を何回も施行していましたが、全く変化が無い状態でした。翌日からブラジルのサンパウロに行くとのことで、お父さんに毎日5分間「イボ消えろ。イボ無くなれ。イボ出て行け」など毎日自分の耳に聞こえる声で唱える暗示療法を教えて「真面目に私が教えたようにやれば必ずイボが取れますから、取れた

らメールを下さい」と約束しました。

それから1か月後にサンパウロから「1週間前にイボが取れました。娘はおまじないがきいたと喜んでいます」というお父さんの喜びのEメールを受け取りました。3か月間合計12回の「いぼ冷凍凝固法」にびくともしなかったイボが、なんと3週間で落ちたのです。おまじないで治るのだから神様・仏様に祈ればさらに有効。病院のイボ治療と祈る治療を併用すれば治癒も早まること必定、これがイボ神様取材旅を始めたきっかけなのです。

「現代皮膚科学大系9」（中山書店）のウイルス性疣贅の治療のところには「暗示療法：疣贅（いぼ）にはナスのへたやイチジクの汁などによる多くの民間療法があり、わが国には各地方に数多くの疣取り地蔵がある」の記載があります。イボ取り地蔵などのイボ神様を世に知らせることが、私のような一線にいる皮膚科専門医の責務と思っています。

主としてインターネット検索で見つけたのですが、高田高校校友会東京支部のある東京都には36か所、周辺の千葉県には50か所、埼玉県には48か所、神奈川県には46か所のイボ神様があります。

都内にはイボ取り地蔵が多く、28か所が地蔵で、そのうち8か所は塩地蔵です。塩地蔵は、江戸時代に塩商人が旅に出掛ける時に塩を奉納して旅の無事を祈るために作られたといわれています。地蔵さん以外は8か所で庚申さんが2か所、観音さん・お薬師さん・お不動さん・お稲荷さん・天神さん・高尾山薬王院の飛飯縄堂など各1か

所です。

塩地蔵で有名なのは足立区の西新井大師の塩地蔵です。イボ取りを祈願して供えられた塩を持ち帰り、イボにつけるおまじないをするとイボがとれるといわれています。

地蔵以外で有名なのは目黒区下目黒の成就院蛸薬師です。薬師さまにイボ取り祈願をしてお撫で石という石を頂いて帰り、それでイボを撫でるのがイボ取りのおまじないです。蛸薬師のご利益のお話は、江戸時代の老中松平定信公の著書『花月草紙』に書かれています。

庚申さまで有名なのは、同じ目黒区上目黒の目黒区総合庁舎東門前のけこぼ坂庚申塔です。有名ではありませんが日本唯一の天神様のイボ神様を最後に紹介します。新宿区西落合2にある葛谷御霊神社の境内社の疣天神です。石を頂いてイボを擦るおま

じないが残っています。

私もこの春、古希になりました。これからの残りの人生の余暇はイボ神様を一つでも多く訪問し世に紹介していきたいと思っています。

ところでイボ神様のいくつかは癌封じの神様でもあります。人間は心の動物です。全ての病気に言えることですが、前向きの心が病気を治癒方向に向かわせます。40年近くの医療の経験から、病には祈りが大切なことを悟りました。2005年12月には『いぼとり神様・仏様』(羽衣出版)の本も出版しましたので、御興味のある方は御覧下さい。またインターネットサイト「いぼとり神様・仏様」のアドレスは、<http://hiramatu-hifuka.com/iboibo/iboindx.html> ですので是非ご訪問下さい。

